

## 第3章 第一次計画の成果と課題

### 1. 第一次計画の取り組み

第一次計画においては、本市の子どもの読書の推進に関する事業を網羅し、充実を図っていくとともに、新たに取り組むべき施策を明示しました（以下、「個別施策」という。）。さらに、この計画の進行管理、検証を行うために、庁内に子どもの読書活動推進会議（以下、「推進会議」という。）を設置しました（資料1）。推進会議には推進担当者部会（以下、「担当者部会」という。）を置き、重点的に取り組む施策（以下、「重点施策」という。）を議論し実施しました。この施策については、読書活動の開始年齢としての乳幼児期がその後の読書活動に大きな影響を与えるといわれていることから、この年齢層に焦点をあてることとしました。また、この時期の読書活動は保護者による関与が不可欠であることから、保護者の読み聞かせ等の必要性についての啓発に取り組みました。

### 2. 第一次計画で実施した内容

#### 重点施策

##### 平成24年度

- ・「筑紫野市子ども読書活動推進計画 ～読んですくすくつくしんぼプラン～」を2月に策定し、6月に計画書を発行するとともに、市の広報に掲載し周知を図りました。
- ・計画の取り組み内容の現状調査を関係各課に依頼しました。
- ・市内で活動する読書団体の調査を実施し、活動状況の把握に努めました。

##### 平成25年度

- ・「よみきかせカード」発行

未就学児童に対する家庭での読み聞かせの促進を目的として、3種類のカードを作成し、市民図書館、幼稚園、保育所（園）で頒布しました。

- ・「ちくしの子ども読書の日」の啓発

「ちくしの子ども読書の日」をより知ってもらうため、しおりを作成することとし、そのデザインを募集しました。1, 174点の応募があり、内訳は小学生1, 162点、未就学児7点、一般5点でした。「推進会議」で4点を選考し、平成26年4月19日（土）に表彰式を行い、5月11日（日）までの期間、応募作品全ての展示会を市民図書館で開催しました。また、選考した4点のしおりを計1万枚作成し、市民図書館と市内の小学校図書館で頒布しました。

##### 平成26年度

- ・「啓発冊子」の発行

「推進会議」において、幼保施設などを通じた子どもの読書活動の必要性が届いていない未就学児もいるのではないかとの問題提起がなされ、一層の啓発を行うため冊子を作成しました。冊子には、子どもの読書活動の必要性や読み聞かせ等を行っている団体からお薦めの本の紹介、また団体の活動日時や場所のお知らせ等を記載し、市内の公共施設や小児科医院で頒布しました。

##### 平成27年度

- ・のぼりの設置

「ちくしの子ども読書の日」を啓発するのぼりを製作し、市民図書館をはじめ、コミュニティセンターや小・中学校等で掲示します。

## 個別施策

取り組みの多くは、それまでの事業の継続、充実を中心に据えています。以下では、第一次計画で新規事業としたものや、その後新たに取り組んだ事業について記載しています。また、計画策定以前から継続して実施してきた事業については資料2に記載しています。

### 平成24年度

- ・「学校における取り組み」の新規事業として市内の全ての小学校に「専任の図書館司書の配置」を行いました。この結果、「学校図書館の環境整備」や「読書活動の取り組みの充実」について進展が見られました。
- ・「市民図書館における取り組み」では、「子どもへの読書支援者の育成」について、ブックスタート・ボランティア養成講座を開催しました。講座終了後には受講者による読書団体が結成され、従来のボランティアグループに加わり活動が行われています。これらのグループに対して市民図書館ではスキルアップのための講座を実施し、ブックスタートのみならず市民図書館「おはなしのへや」や生涯学習センター「青少年プラザ」、総合保健福祉センター カミーリヤ「プレイルーム」などで読み聞かせ等の活動を行うなど活動が広がっています。
- ・「地域における取り組み」では、筑紫南コミュニティセンター図書室において貸出冊数の増加がみられます。

### 平成25年度

- ・平成24年度と同様にブックスタート・ボランティア養成講座を開催しました。今回も、講座終了後に受講者が新たに読書団体を結成し、従来のボランティアグループとともに活動が行われています。これらの団体に対して市民図書館では引き続きスキルアップのための講座を実施しています。
- ・福岡県と共催で「小学生読書リーダー養成講座」を実施しました。市内全ての小学校から代表児童2名が受講し、読書の楽しさや大切さ、読書リーダーの役割について学ぶと共に、ポップ作りや資料整備、読み聞かせの指導を受けました。その後、受講者は読書リーダーとして各学校で読書推進のために活動しました。

### 平成26年度

- ・市内の全ての中学校に専任の図書館司書を配置し、「学校図書館の環境整備」や「読書活動の取り組みの充実」を図りました。
- ・平成25年度に福岡県と共催で実施した「小学生読書リーダー養成講座」を市の単独事業として実施しました。

### 平成27年度

- ・「小学生読書リーダー養成講座」を実施しました。
- ・「ちくしの子ども読書の日」ののぼりを製作し、図書館や学校、コミュニティセンターで掲示します。

## 3. 現状

筑紫野市民図書館には276,869冊(平成27年4月1日現在)の蔵書があり、その中の64,957冊が児童書に分類されるものです。

市内小中学校の学校図書館の蔵書数は資料3のとおりとなっており、各校内で運用されています。

そのほかに市内6ヶ所のコミュニティセンターのうち筑紫南コミュニティセンターは図書室を備え、読書団体「はらっぱの会」が運営しています。図書室には約7,400冊の蔵書に加え、市民図書館から3ヶ月に一度500冊を団体貸出により6ヶ月間貸出し、常時市民図書館の図書が約1000冊配架されています。また、そのほかにもコミュニティセンターや公民館などで読書関係団体が読み聞かせ等を通して子どもへの読書活動を進めています。しかし、これらの団体が活動を行うに当たって十分な図書が確保されているとはいえず、図書館からの団体貸出状況は資料4のようになっています。

また、乳児の保護者に対して、読み聞かせの大切さや楽しさを伝えるために平成15年度からブックスタートを実施しています。(資料5)

#### 4. 成果と課題

重点施策においては乳幼児の保護者を対象とした、子どもの読書活動の必要性を啓発する事業を中心に取り組んできました。しかし、アンケート結果(資料6)から十分な成果が出ているとはいえず、第一次計画において実施した啓発事業のみでは、子どもの読書活動の必要性についての理解を十分浸透させることは困難でした。一方、「ちくしの子ども読書の日」に関する学校図書館での事業や一部地域でボランティアによるブックスタート周知のための活動も行われ、取り組みの萌芽もみられます。

個別施策の取り組みは、実施可能な施策を網羅しており、これらの事業の充実を中心に据えています。これら多岐にわたる多くの事業について迅速な取り組みの向上は難しい状況です。しかし、継続し、取り組みの向上を目指すことは重要であり、第二次計画においても実施すべき事業を整理して推進する必要があります。

第一次計画では不十分だった啓発をより実効性のあるものとするために、配布物による啓発だけでなく、子どもたちの手に本を届けることで読書への関心を促し、読書活動の推進につなげる必要があります。